



説教要旨 「祈りを教えてください」

ルカによる福音書 11章 1～4節

イエス様が弟子たちに教えられた“主の祈り”。そこではまず、こう呼びかけられます。「父よ」と。

神様を「アッバ、父よ」と呼んで祈っておられたイエス様が、弟子たちにも、神様に向かって「父よ」と呼びかけるようにと教えています。放蕩息子の物語(15:11 以下)のように、神様の子どもであることを捨ててしまった私たちは、もはや神様を「父」と呼ぶなど許されない者です。けれどもイエス様は、神様に背を向け、放蕩の限りを尽くした私たちに、「父よ」と呼びかけるよう促すのです。それは、『神様は今でもあなたがたを子どもとして愛してくださっているのだ』と、神様との間に、父と子としての関係性を回復するようにと、私たちが招いて下さっているのです。

私たちが神様との間に、父と子としての関係性を失わせようとする力はすべて「誘惑」です。それは自分の名誉欲だったり、人を支配しようとする思いだったり、自分の力だけで生きていると思いががることだったり、神様が自分の罪を赦して下さることを信じることなく絶望してしまうことだったり、また神様に赦されていながら、他の人の罪を赦そうとしない身勝手さだったりするのです。そうした誘惑に遭わせないでください、と祈るようにとイエス様は教えて下さいました。これらの誘惑は私たちがこの世を生きる限り常につきまっています。しかしその中で、これらの誘惑に負けてしまい、イエス様が十字架の死と復活によって与えて下さった神様との新しい関係を失ってしまうことがないように守って下さいと、私たちは神様に祈るのです。

イエス様は、どう祈ればわからない私たちに“主の祈り”を教えてくださいました。それは、呪文のようにただ唱えていれば、何らかの効果が得られるというものではありません。私たちは、イエス様が教えてくださいましたこの“主の祈り”を日々祈りつつ、その度に神様のもとへと日々引き戻されつつ、歩んで参りましょう。



(2019・5・5 説教者：稲垣真実)